

第16回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

- 1 日 時 令和3年2月24日(水) 15時05分～16時15分
- 2 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 3 出席者 委員11名のうち8名出席
- 4 傍聴者 2名
- 5 会議経過 (1) 開会 15:05
(2) 挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者2名と報告)
議事録署名確認
(名簿順につき佐々木委員に依頼→了承)
資料確認(配布漏れなし)
(3) 議事
①2020年度以降 事業実施計画について
②事前キャンプ実施時における新型コロナウイルス感染
予防対策の検討状況について
③ホストタウン交流について
(4) 閉会 16:15

6 議事概要

○長江会長

皆様、こんにちは。本日の会議の円滑な運営につきまして、委員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

お忙しい中、ご参加いただきまして本当にありがとうございます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

緊急事態宣言下でございますので、新型コロナウイルスの関係もありますので、議事につきましては一括して事務局よりご説明いただき、その後、委員の皆様からご意見、あるいはご質問等をいただきたいと思います。

それでは、事務局より説明をよろしく願いいたします。

(事務局から一括して説明)

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、ただいまの事務局からの説明に対しまして、委員の皆様からご意見、ご感想をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

岡本委員のほうから何かございますか。

○岡本委員

来てくれる選手団については、入国時の検査等、それから待機期間中の検査等もあって、とってもしっかりやってもらえるんだなという感じがします。その中で、選手団と市民の交流というのも十分行えるようにしたいと言うけれども、これはなかなか現実的には難しいのかなと感じましたが、何か具体的にあれば、教えてください。

それから、ワクチンが一番重要になってくると思いますが、いかにしっかりそれを行っていくかということと、オリンピック・パラリンピック開催自体がどういう運営をしていくのか、観客を入れないとか、いろいろそういうものがあるでしょうけども、その辺がちょっと気になりますよね。それでも、とにかくホストタウンとして選手団を受け入れて事故がないように、いい成績を取るようにホストしていくということが一番ですから、しっかり今後も準備をしていってほしいなと思います。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。市民との交流について事務局から何かございますか。

○事務局

交流の方法についてはまだ未定なところもございますが、現在もオンラインで交流した経験もございます。何回か松戸市に来ていただいた選手の他に、まだつながっていない方もいらっしゃるので、そういうところをつなげていけるようにしていきたいなと思っております。

また、フィジカルディスタンスを取りながら、例えば陸上なんかですと外で換気もできるとか、競技によっても、種目によってもいろいろあると思えますので、競技の特性とかも見ながら交流ができたらいいなというふうに考えております。

あとは市民の方々には、こういう選手の方とつながっているんだというところをもっと知らせるような取り組みをしていかななくてはいけないと思っております。

オリンピック・パラリンピックの実施や、内容が不透明な部分がマスコミ等

で言われておりますので、千葉県や東京都などの情報をアンテナ高くして、すぐ取り入れられるようにしていきたいと思っております。ご心配をおかけしないように、オリンピック・パラリンピックの後も交流していけるよう考えていきたいと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、尾崎委員、いかがですか。

○尾崎委員

社業がスポーツですので、こういう感染拡大、収束に向かっているとは思いますが、スポーツが不要とは言いませんけども、不急という考え方もあります。我々メーカーとして、あるいはアスリートが、こういう中で本当にモチベーションを維持しながら、何とかオリンピックが開催されたときには、最高のパフォーマンスを発揮したいというアスリートが全世界に今いるということと考えますと、今アスリートファーストと言いますが、迎え入れる日本、あるいはそれぞれの行政、その市民もやはりファーストかなということだと思います。ですので、できる限りの感染予防対策ということと、できる範囲のアスリートファーストの準備、こういうことをしっかり国と連携して、行政としての役割を果たすことが一番ではないかなと思います。

そのためには、なかなか難しい部分はあるかと思いますが、情報が市民の方々に行き渡る、あるいはアスリートの皆さんにも今のトレーニングができる環境がどうかということをしかり行き渡らせるということが大事じゃないかなと思っています。

最後としては、このオリンピックが開催されるか開催されないかという、ぜひ開催してほしいのは、もうそれが一番ですけれども、どっちになったとしても、今やっている対策こそがレガシーとして、この感染下の中でのスポーツとか健康維持に対することにつながると思っていますので、ぜひそのときの記録などもしっかりと残していくということが大事じゃないかなと思います。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。事務局から今のご意見に対して何かございますか。

○事務局

ありがとうございます。市民ファースト、アスリートファースト、誰がファーストなのかということにはなると思いますが、今この状況下におきましては、そこをどのレベルで合わせるかということが一番難しいところであると思います。また、そういったところがちゃんと市民理解につながるように、情報の発信というところは細かくやっていくべきだと今改めて思いましたので、この辺の情報伝達を念頭に置きまして今後進めていきたいと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、須田委員のほうからよろしくお願いま

す。

○須田委員

僕のほうからは1点、事前キャンプ時の選手団の検査モデルというのは、今までの会議の中では出てきていなかったのかなというふうには思っています。このあたりの国、組織委員会の受入れの期間ももっと長かったような気がしますし、これが確定ではないと思いますけれども、コスト面も含めて、人間的な問題であるとか、そういうことの負担を誰がするのかというところもやはり考えていかなきゃならないのかなと思いました。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

期間につきましては、想定として作成させていただきましたが、現在期間の確定を、ルーマニアとドミニカ共和国のオリンピック委員会宛てに希望を確認しているところでございます。また、選手村への入る日程も、国から示された部分もございますので、その中でどうはめていくかというところを現実的にやっているところでございます。

千葉県も、県全体でオランダのホストタウンになっているので、そのモデルを情報提供いただきながら、参考に考えていきたいと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、佐々木委員、いかがでしょうか。何かございますか。

○佐々木委員

いや、すみません、ちょっと遅くなってしまったので、ほとんど聞けていなかったもので、今回はコメントを控えさせていただきます。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、橋口委員、いかがでしょうか。

○橋口委員

私もいろいろとお話を伺って、現状の動きの中で、これまでずっと積み重ねてきたものをどのように動かすか。私の場合は大学の中にいますので、学生を今後このきっかけでどう動かしていくのかというようなものが、今回の資料を見るとなくなってしまったかなというのが率直な意見です。実際、数年かけていろいろと動いていたものが、計画を見ると来年度の3月で終わるということだったので、何が残ったのかなと、私自身も問い直すところでありまして、この組織として必要なのかなというのがまず思いました。

あと、開催される、されないは別として、現状として感染症の中で動いて、今動き始めている選手も多くいますので、質問というより私的な意見になりますが、ぜひ終わった後も、ドミニカ共和国にしても、ルーマニアにしても交流ができる企画ですとかを今のうちに提示することが重要ではないかと思いま

す。実際にやるやらないにしても、終わった後にもう1回来てもらって大会出場するですとか、市民の方との交流するのというところも、世の中での機運というのがなかなか上がり切れないところもあると思うので、ぜひその部分を調整してもらえたらと思います。オリンピックの時には松戸市にはルーマニアとドミニカ共和国が来るんだと。そのあとは継続的に何か交流ができるよ、ということは松戸市の強みにできたらいいんじゃないかなというのが意見です。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。レガシーという部分と、学生さんにこれまでいろいろご協力いただいているボランティア精神というところも育ってきているのかなというふうに考えていますし、大学の連携というところも、今回育ったのではないかなというふうに考えております。こういったものは、やはり継続していききたいというふうに考えております。今、具体的に何をというところまでは考えがまとまっていないのですが、このオリンピックを契機に、開催されなくても何かつなげていくきっかけというのはつないでいかなければいけないというふうには考えています。

先週、ドミニカ共和国の在日大使がいらっしゃったときに少しお話をさせていただきまして、そういった未来をつなぐ子どもたちに、そういったグローバルな視点ですとか、そういったものを伝える機会として、今後も末永くお願いしたいとお話しはさせていただいておりますので、そういったところをルーマニア、ドミニカ共和国、ほかにもホワイトホース市とか、松戸はいろいろとございますので、広い視点を持って積み上げていききたいというところは念頭に置きまして、今後、取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、伊藤委員、いかがでしょうか。

○伊藤委員

本当にこういう厳しい状況の中でいろいろ考えていただいて、今回示していただいて、非常に良いなと思っています。ただ、気になったのは、事前キャンプで来られた選手たちとのいろんな交流を、恐らくホストタウンとしてのメインになるのだらうと思うのですが、基本的に入国後14日間は自宅待機ですよというふうに言うておきながら、入国した翌日から、いわゆる事前キャンプですね。そうすると、松戸のほうでその人に対するいろんな事前の検査とか、そういったものをやりながら事前キャンプをしていただく。しかし、それは正式には自宅待機期間中になるわけですね。

だから、それが非常にしっくりこないなと思うのですが、場合によっては選

手が選手村に入る14日前に彼らが来るかどうかというのは分からないと思うんですね。1週間前にしか来ない人たちというのもいると思いますし、私もよく分からないですけども、そうすると、事前キャンプを本当にうまくマネジメントするのが非常に大変、かつ、選手たちとの市民交流をどういうふうにセットしていくのか。選手等との接触が生じないような形態、オンライン等での交流を原則とするということですので、例外はあるのかもしれませんが、基本的にはオンラインでやる。となると、かなり限られた形になるし、オンラインでやるというのは、私の世代ではイメージがあまりできないんですけども、市民を広く集めて何かをやるとかというのもできないので、例えば学校単位になるとか、学校の中でもクラス単位になるのか、非常に限定的な人たちとのオンラインでの交流、それもやらないよりはやったほうがいいので、ぜひそういうふうに絞り込んだ形でやっていただいて、それに参加した子どもたち、あるいは学生たちがいい記憶に残るような形でやっていただければと思っています。本番を控えた選手たちですから、どこまでできるのかなというのは私も心配をしています。

でも、これから規制が緩くなるのか、あるいは厳しくなるのか分かりませんが、我々にはできるだけ協力したいと思うし、皆さん、本当にうまくアレンジしていただく必要があるのかなというふうに思っています。

それから、今お話があったように、大事なのは事後の交流だと思います。ルーマニアについては、来年の七草マラソンがどうなるか分かりませんが、今まで以上に複数の選手に来てもらうとか、ドミニカ共和国は梨の交流をやっていますので、それを継続するとともに、スポーツ関係については、松戸で新しい催しをするというのはなかなか大変だと思いますので、既存のいろんなお祭りや花火大会、桜まつりなどがあるので、それを機会に何かうまくスポーツの要素などを取り入れて、ドミニカ共和国から来ていただくということもあるかと思っています。向こうは野球が盛んですから、そういったグループに来てもらって何かやるとか、事後についても単発的でもいいので、何か続いていくような形で続けていただくような一つのシステムみたいな仕組みをうまく残して、あとの人がうまくそれをやっていけるようなものを今からつくっておいていただけるとありがたいなというふうに思うんです。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

事後のことにつきましては、今日ご欠席の西機委員からも、ずっとレガシーをどうするのかというところのご意見をいただいている中で、オリンピック・パラリンピックが終わった後も松戸市としては、このレガシーをずっと残していきたいということが念頭にございます。そこで今、松戸市全体のこれから10年間の総合計画という計画を立てている中でも、このレガシーを残していくと

いうことを入れて今検討しております。

ですので、オリンピック・パラリンピックが終わってしまったら課はなくなると思いますが、この役割というのは必ず残して、ドミニカ共和国とルーマニアとの交流のレガシーを残して、次につなげていくということは必ずやっていきたいと思っております。今までコロナ禍以前に、いろんところで交流をしていただいたときに、市民の方々が大変喜んでいただいているように七草マラソンなどで、ルーマニアやドミニカ共和国が来ていただいたときに、いろんな学校を訪れていただいて、選手の方々も小中学生、高校生の皆さんが喜んでいただいているのがすごく分かりましたので、これから国際化という時代の中で松戸市に必要な施策だと思っておりますので、それは必ず残したいと思っております。

特にスポーツの重要性については、スポーツと国際化というところでは特に大事なところだと思っておりますので、佐々木選手のように活躍する松戸の方もたくさんいらっしゃいますし、松戸市民の方々に夢を与えるものとして、オンラインの交流というのは難しいというお話も出ていたんですけども、小学生5年生に対する夢の教室という日本サッカー協会がやっているものは、今年はオンラインでやらせていただいています。オンラインで全クラスやっておりますけれども、それでも楽しかったというふうな感想もいただいておりますので、今、子どもたちは特にそういうのに慣れるのが早いので、そういう交流というのは当たり前になってくるかと思っておりますので、その部分はうまく機能させていくように工夫をしていきたいと思っております。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、薄葉委員のほうからございますでしょうか。

○薄葉委員

今、事務局から報告していただいたことについては、昨日まで考えていたのが今日は別な角度から考えなきゃいけない、そういうことを何回も何回も繰り返しながら、ここまで来たのかなと、そのような気がしています。

そして、レガシーについては、尾崎委員がおっしゃったようなことで、ここで経験したことが何らかの形で生かせるように、そうしたら、新しい基本計画、構想みたいなことにも少し入ってくるというようなことも今お聞きしましたし、松戸市として今後、少しでも生きてくれば、それ自身が市民のためになっているのではないかと思います。このコロナの状況については、国も含めても誰も分からないので、その時、その時の最善と思うことを誠実にまじめにやっていたら、それに尽きるのかなとやってきましたから、こういう報告ができたのかなと思っております。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。終わった後に続いていくということとか、国際とか

地域というキーワード、あるいは連携、つながるということ、たくさん出していただきました。私のほうから言うと、この会議というのは、やさシティおもてなシティと付いているんですね。今回のオリンピックは選手村に全員が一気に入るといふオリンピックではないらしいので、そういうことから考えると、松戸市の立地条件はルーマニアにとっても、ドミニカ共和国にとっても最高だと思います。それから、来ていただいた選手の方々と直接的に交流ができないとしても、例えて言えば、マスク1個でも、手づくりのものを、もちろん消毒した上でお持ち帰りいただきたいとか、もしそういう方がいらっしゃったら、お金に代えがたい価値になるのではないかと思います。あるいは商工会議所の薄葉委員とか、あるいは須田委員がよくご存じだと思いますが、松戸にはいろんな食べ物があるんですよ。それこそ観光協会の会員さんがお弁当で松戸の食材を生かしているとか、松戸市内に食に関する工場が幾つもあります。ヤマザキパンだけではなくて、それこそパンならツオップとか、あるいはラーメンだったりとみ田とか、たくさんあるんですよ。

そういうものを感染に気をつけて、9月のパラリンピックまでいくとなると、梨も出せるし、できるだけおいしかったよ、よかったよ、松戸っていいわというふうに思っていただけのようなものを、お金をかけずに何とかPRをし、そういうものが市民の方々とつながりになればなと思っています。ささやかですけど、松戸って温かいなと思っただいて、帰っただき、今後につながる形になればなというふうに思っています。

果物だけでも梨だけじゃなくイチゴもありますし、キウイも作っているし、ブドウでも幾らでも観光農園があるんですね。そういうところに選手の方々が訪問されて、感染に気をつけてブドウ狩りもしていただくとか、あるいはそこに行くことが難しかったら、そこで取ったものを、届けてもらうとか、そんなことをできる範囲の中で、人の顔が見える交流をどこかにうまくつなげていただけたらいいのかなと思います。

つまり、新しく何かを松戸でつくるんじゃなくて、松戸にある良さをいかにつなげていただくかということで、さっき橋口委員がおっしゃったような4大学の連携で、学生のインタビューでも何でもいいんですが、学生たちとオンラインで結ばれるということが素晴らしい経験になるのかなと思います。それから終わった後でも、始まる前でも、ドミニカ共和国やルーマニアの料理を味わうというようなことも面白いのではないかと思います。

そういうお互いに交流しているという情報を、小さなニュースでも結構ですからユーチューブなどに載せて後からでも見ることができるようになるとか、あるいは高齢だったら、パソコンとかできなくてもパブリックビューイングで見ることができるようという形でつなげていくなど、マスク1個でも、どこかで交流に協力できたら思い出になるのではないかなと思います。

○事務局

ありがとうございます。いろいろご提案をいただきまして、本当にありがとうございます。やっぱり思い出に残るといのは、次の世代につながる第一歩なのかなというふうに考えています。

そういった観点で、もし大学ですとか、商工会議所ですとか、国際交流ですとかと協力していけたらなと思っております。また、情報発信につきましても、積極的に務めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、佐々木委員のほうから、これまでいろんな大会に出ていらっしゃると思うんですけども、その中で大会を開催するような国とか、あるいは場所で、こんなことの交流が意外とうれしかったとか、そういうものはありますか。

○佐々木委員

フランスに行ったときに大会後にサプライズで、ふだんは一般の方が泊まることのできないホテルに一度宿泊させてもらったりとか、自分が昔、マネジャーがいたときに、スイスでスイス大使館に「佐々木元という選手が日本から来るよ、ぜひ大会を見に行こうね。」と言っただけで、それだけでも自分はうれしかったです。そんな大それたことは要らないので、本当に何でもいいので、気持ちをいただければ、それが一つ一つ思い出になると思います。

自分もそうなんですけど、多分選手側としても、アスリートって、それで生活している中で、還元するというのが非常に難しい職業なんですね。一般の職業だと、皆さんのためになって、それで対価としてお給料を頂く。アスリートは、自分が頑張ることで、それで見てもらって元気づけたり、そういう人がたくさんいるから応援してもらうことで対価を得るということなので、アスリートは、トップの選手はそれをちゃんと理解している中で、こういうコロナとかで、せっかく松戸が招致してくれて、ただ自分が何もすることができないというのは結構悔しいと思うので、アスリート側も、もうちょっと松戸に何かできないかなと、こう言ってくれるのを求めているんじゃないかなとは思っています。さっきお話のあったインタビューとか、直接指導をするのは今はできないと思うんですけども、小さい子に走り方を指導する動画を1個作るだけでも、多分それを見た子どもは一生その走り方をイメージして走るだろうし、そういった何かこの状況でもできることを素直に相手側に相談したほうがいいんじゃないかなと思います。

○長江会長

ありがとうございます。コロナだからできないのではなくて、コロナだからこそ、ちょっとでもできることをお互いに、アスリートの方と相談しながらやっていくということが、そういうことがすごく重要だということですね。

○事務局

ありがとうございます。なかなかオリンピックに出場するような方にこんな願いをしてはまずいんじゃないかというところも、ちょっと我々も気後れするところがあったりするので、こういったご意見をいただくと少しアプローチの仕方が変わるのかなというふうには思います。還元することがなかなかできないとおっしゃっていましたが、戦う姿とかを見ることで、池江選手なんかもそうですけれども、病気からカムバックする、そういったところに勇気をもったりだとか、生きる希望をもったりというところでは、パワーをもっているのかなというふうに思っておりますので、そういったところを我々がお返しできるような、ちょっとしたことでいいというアドバイスもいただきましたので、そういった観点も踏まえながら検討していきたいと思えます。ありがとうございます。

○長江会長

ありがとうございます。

○佐々木委員

すみません、あとは、2週間事前キャンプというのは松戸市で行われるということですね。自分の経験の話で言うと、2週間正直何もイベントがなく、体育館で練習するというのは非常につらくて、正直集中するのは大会の2日前ぐらいからだと思うんですね。その前の2週間、気を遣って何もしない、そっとしておくというのは、逆に多分選手にとってはつらいことだと思うので、正直、2週間前の1時間なんて大した時間でもないんですよ。だから、逆に気分転換に、今日、動画を1時間撮らせてくださいとか、そういうイベントがないと、本当に監禁されているような状態だと逆に伸び伸びできないと思うので、一緒に今後につながる何かをつくっていったほうがいいと思います。

○長江会長

ありがとうございます。生の声で本当にありがたいと思います。

○事務局

ありがとうございます。今お示したのはパターンということで、2週間、実際に来るかどうかというのは、その競技と選手によりますので、もしかすると事前キャンプには2日しか来ないかもしれないし、そのまま選手村に入られるというような、その辺はまだ分からないところではございますので、これはあくまでも、こういった14日のパターンというところでお示しをしております。

アドバイスをいただいたとおり、この間、テニスの全豪オープンで、やはり2週間監禁されて選手が大変だったというニュースを見ましたが、そういったずっと監禁状態になりますので、その辺も選手のメンタル的な部分ですとか、そういった部分もケアできるような形で、もし我々がお手伝いできる場所がありましたら、やっていきたいとは思っております。ありがとうございます。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは最後に、そのほか何か質問とかご意見とかがありましたらよろしく
お願いします。

(事務局から委嘱期間について説明)

○長江会長

ありがとうございます。今の話のとおり、皆様方、ぜひあと1年間の延期、
委員の継続、よろしく願いいたします。

皆様方のほうから何かございませんか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、事務局のほうから今のこと以外にほかに何かございますで
しょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の会議が皆様方のご協力をもちまして、本当にいろいろなご
質問、ご意見をたくさんいただきました。ありがとうございます。

次回の会議は日程が決まりましたら、また正式に通知をさせていただきます
す。本日はご協力いただき本当にありがとうございました。